

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「なかまとまちと つながりながら かがやく ヒガシナの子」

- 自ら課題を見つけ、主体的に考え、学び合う力を育てます。(知)
- 互いを認め大切にして、豊かな人間関係を築く力を育てます。(徳)
- 人と関わりながら、積極的に体を動かし、心身共に健やかにたくましく生きる力を育てます。(体)
- 地域や人と進んで関わり、地域とつながろうとする態度を育てます。(公)
- 学んだことを生活の中で生かし、様々な社会の変化に対応できる力を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

コミュニケーション能力
問題発見・解決能力
自ら行動する力

具体化した資質・能力

- ・互いを認め、大切にし、豊かな人間関係を築けるコミュニケーション能力
- ・児童自らが課題や問題を発見し、その解決を図る力
- ・様々な学習課題や社会の問題に対し、自分なりの解決策を探り、その解決に向かって自ら行動する力

中期取組目標

- 主体的・対話的で深い学びを目指す中で、児童自らが問題を発見し、解決する能力を育て、その解決に向かって行動する力を育てます。
- ・1年目は、一人一台タブレット端末等も活用しながら、主体的に学習に取り組む力を育てます。
- ・2年目は、対話的な学びを充実させる中で、児童自らが問題を発見し、解決する能力を育てます。
- ・3年目は、主体的・対話的で深い学びの中で、児童自らが課題解決のために行動する力を育てます。
- まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。
- ・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
GIGAスクール構想 授業改善	①GIGAスクール構想の具現化を目指し、一人一台のタブレット端末を活用した授業づくりを行う。②重点研の研究主題を「豊かにかかわりあい、よりよく生きようとする子どもの育成」、副主題を「自ら問題を発見し、主体的・対話的に解決していく深い学びを目指して」と設定し、友達と学び合いながら、対話的に問題解決をしていく力を育成する。③教師主導での課題や問題の提示、解決を促していく授業から、児童自らが問題を発見し、解決方法を考えていく授業への転換を図る。
担当 研究委員会	

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童の実態
過去の学力・学習状況調査の結果からも、本校児童の全般的な特徴として、いわゆる数値で測れる「学力」(例：ペーパーテストの結果等)の面では、高い水準にあるものの、数値で測ることが難しい「意識」(こちらも広義の学力) (例：〇〇科の勉強は好きですか。)や「授業には自分から進んで参加していますか。」など)の面では、決して高い水準にあるとは言えないことが分かってきた。

(2) これまでの学校の取組状況
昨年度の重点研究での課題として多く挙げられたのが、「対話的で深い学び」についてである。職員からは、「相手意識を持って伝えたいと思っている子供が少ない(低学年)」、「タブレットに熱心になるあまり、対話的活動が活性化しなかった。(中学年)」、「相手の発言を踏まえた発言をすることが苦手である。(高学年)」等と、多くの課題が挙げられた。
このことは、本校が令和3年度に策定した「教育課程全体で育成を目指す資質・能力として、教育活動全体の中で高めていく資質・能力」の中にある
○コミュニケーション能力
○問題発見・解決能力
○自ら行動する力
とも、密接に関わっている。特に、本校の児童にとつて、先頭に掲げた「コミュニケーション能力」の向上は、最重要のテーマとなっている。
今年度についても、校内重点研究の機会等を積極的に活用して、「対話的で深い学び」と密接につながる「コミュニケーション能力」を高めていく必要がある。



今年度の目標

対話的な学びを充実させる中で、児童自らが問題を発見し、解決する能力を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<p>【低学年ブロック 第1学年及び第2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な学習の仕方をも身につける ・読み・書き・数・計算などの基礎的な知識を身につける。 ・教師の手本に習い、適切な話し方や書き方をすることができる。 ・見たことや感じたことを話したり書いたりして表現することができる。 ・タブレット端末で教師からの情報を受信・閲覧することができる。 <p>【中学年ブロック 第3学年及び第4学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集団での学習の仕方をも身につける ・基礎的な知識を活用し、課題に沿って学習を進めることができる。 ・自分の思いや考えを班や学級の友達に表現することができる。 ・生活や学習上の関心事を教師や友達と共有する。 ・タブレット端末の基本操作(回答、提出など)ができる。 <p>【高学年ブロック 第5学年及び第6学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題を見つける力を身につける ・既習の知識を活用し、目標をもって学習を進めることができる。 ・自分の思いや考えを他者に伝えやすくなるための方法を考えることができる。 ・生活や学習の中から問題を見出し、学年や学級で共有することができる。 ・タブレット端末を活用し、教師や友達と情報の共有・発信ができる。
下半期	<p>【低学年ブロック 第1学年及び第2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身につけたことを活用して友達と学習を深める ・読み・書き・数・計算などの活用の仕方をも身につける。 ・適切な話し方や書き方で伝えたいことを表現することができる。 ・見たことや感じたことを教師や友達と伝え合うことができる。 ・タブレット端末で教師から得た情報を学習に活用することができる。 <p>【中学年ブロック 第3学年及び第4学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と情報や意見を交わし合い、集団で学習を深める ・既習の知識を活用し、自分の考えをもって学習することができる。 ・自分の思いや考えを根拠つけて友達に伝えることができる。 ・学年や学級の関心事を学習の中で解決しようとする習慣を身につける。 ・タブレット端末を適切に操作して調べ学習や学習のまとめができる。 <p>【高学年ブロック 第5学年及び第6学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年や学級で協働し、問題解決的に学習を進める ・自ら課題を見つけ、知識や技能を効果的に活用して学習することができる。 ・自分や集団の意見をまとめて表現し合い、互いの考えを深めることができる。 ・学校・学年・学級の問題を捉え、仲間と協力して解決しようとする。 ・情報モラルを考慮し、タブレット端末を活用した学習活動を展開できる。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①進んであいさつする子どもを育てるために、学級・学年を単位とし、子どもたちが自ら考え、工夫したあいさつ運動に取り組む。②学年・学級目標を活用し、自分自身の行動を振り返り、いじめや差別のない学校生活を目指す。③道徳科を軸として、人の心や行動について考え、自分自身を見つめ、自他のよさを認め合える子を育てる。
担当	児童指導人権委員会

豊かな心に関わる本校の状況
<p>・令和4年度は、児童運営委員が全校にあいさつ運動を提案した。児童運営委員の児童が手本になって、あいさつ運動が始まった。そして、学級ごとに工夫してあいさつ運動に取り組んだ。自分の学級があいさつ当番の時は、あいさつが盛り上がるが当番でないときは活性化しにくい課題や、学級ごとに取組の差があった。</p> <p>・それぞれの学級で、人権の視点を入れた学級目標を作り、昇降口に掲示して、いつでも見ることができるようにした。それぞれの学級で、日々学級目標を意識する指導・取組がなされたが、児童同士傷つけたり、傷つけられたりということもあった。</p> <p>・道徳科の授業については、年間計画の中で道徳的価値の位置づけを明確にして実践してきた。</p>

今年度の目標
○進んであいさつする子どもを育てる。○いじめや差別のない学校生活を目指す。○道徳科を軸に自他のよさを認め合える子を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<p>○あいさつの取組 運営委員会発信で、あいさつを意識づけたり広げたりする。樹木活動や集会活動で他学年との交流を深め、つながりができた人にはあいさつをするなど相手意識をもってあいさつができるようにする。おはようございます、さようならのあいさつは特に意識してできるようにする。○学級目標の掲示 児童の目に入るスロープのところに掲示し、前期の振り返りも掲示する。振り返りの仕方については、板書を写真に取り、それを掲示する。</p> <p>○横浜プログラムの取組 YPプログラムを活用し、子供の実態を把握した上でそこにあったプログラムを選び年間を通して必要な場面で実践していく。○道徳の実践 各学年の主題を必ず積み重ねて、次の学年へ積み上げていけるようにする。</p>
下半期	<p>○あいさつの取組 学級などでのあいさつ運動を通して、日常生活の中であいさつを身につけることができるようにする。○学級目標の掲示 前期の振り返りを受けて、さらに学級目標を目指した取組をしていく。○人権週間の取組 子どもたちの人権意識を高める人権週間を計画・実施する。○横浜プログラムの取組 横浜プログラムの取組を継続する。</p>

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①児童が楽しく主体的に体を動かせる授業を実践できるように、教員の指導力向上を図るための研修を行う。②健康委員会と体育委員会を中心に体力向上や運動をする楽しさを感じることができる活動を企画する。③給食週間や食育ワーク等を活用した指導を行い、食育への興味関心を高める。
担当	健康・安全委員会

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
<p>(1) 健やかな体に関わる児童生徒の実態 令和4年度の各学年の新体力テストの結果を見ると、市の平均値との比較では、1～5学年において市の平均を上回っている。新体力の結果が市よりも大幅に上回っている2, 3, 4, 5年生の傾向としては、「反復横跳び」の値が高い。新体力の結果が市の平均または下回っている1, 6年生の傾向としては、「50m走」の値が低い。 低学年の傾向は、「握力」が市を大きく上回っている。一方で「50m走」が下回っている。 中学年の傾向は、「反復横跳び」「長座体前屈」等で市を上回っている。その一方で「シャトルラン」「ボール投げ」が下回っている。 高学年の傾向は、「長座体前屈」「ボール投げ」が市を上回っている。一方で「握力」「立ち幅跳び」が下回っている。 このことから低学年は短距離の力、中学年は持久力、高学年は瞬発的に力をこめる運動を、体育学習や日常の遊びの中で意図的に取り入れて、更なる体力向上を目指す必要があることがわかる。</p> <p>(2) これまでの学校の取組状況 樹木活動で大縄大会、健康委員会から各クラスが取り組めるように体力アップを目的とした動画を作成、アップし、子どもたちが進んで継続的に体力向上に取り組めるようにした。</p>	目標を実現するための具体的行動プラン
	<div style="display: flex; flex-direction: column; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">上半期</div> <div style="text-align: center;">下半期</div> </div>